

国際シンポジウム「Tube & Pipe Osaka 2015」

玉川大学工学部 エンジニアリングデザイン学科
教授 春日 幸生
(平成 26 年度 国際会議等開催準備助成 AF-2014035)

キーワード：ロールフォーミング，造管，溶接，矯正，切断，二次加工

1. 開催日時

平成 27 年 7 月 13 日(月)～15 日(水) 講演会・見学

2. 開催場所

大阪国際会議場(グランキューブ大阪)
〒530-0005 大阪市北区中之島 5-3-51

3. 国際シンポジウム報告

本シンポジウムは、(一社)日本塑性加工学会ロールフォーミング分科会が主催し、特別協賛団体として国際管材協会 (ITA) および(一社)日本鍛圧機械工業会 (JFMA)、協賛団体として CCRSA (中国冷弯型鋼協会)、当会チューブフォーミング分科会、(一社)日本鉄鋼協会 管工学フォーラムならびに(一社)日本機械学会 機械材料・材料加工部門の協力を得て開催された。

ロールフォーミング分科会では、活動の一環として毎年 7 月に公開セミナーを開催している。ロールフォーミングに関連した業務・教育・研究に関わっている者であれば誰でも参加できる企画である。当シンポジウムはこれを発展拡大した形で行う行事であって、その第 1 回を 2000 年に大阪にて開催している。以後、第 2 回が名古屋(2006)、第 3 回大阪(2011)、そして今回が 4 回目となる。

過去 3 回の開催では、ITA(国際管材協会)が共催団体となり、海外講師手配・参加者取りまとめを担当した。今回は協会本部がイギリスからドイツへ移転したばかりということもあって、従来のような協力体制を敷くことができないことが予想された。そのために実行委員 (分科会運営委員が担当) は不慣れた準備作業に追われた。国内企業ならびに海外企業の日本事務所の多大な協力もあり、収支を含めて大きな成功を収めることができた。学会と協会との協力は今後も増えることが予想されるが、その協力体制については大まかな指針があったほうが良いと思われる。

本シンポジウムの目的は、管材産業に関わる研究者・技術者が最新の技術・製品ならびにマーケットの動向についていち早く知る機会を提供し、今後の課題や方向性について意見交換を推進することにある。

今回の参加者数は全体で 188 名であり、前回の 168 名を上回る実績を残した。前回 2011 年開催時は東日本大震災直後に開催されたことを考えると、やや物足りない感もあるが、全体としてはまずまずの参加者数となった。日本以外からの参加国は 11 か国であった。内訳は、日本 152 名、

ドイツ 9 名、中国 8 名、アメリカ 5 名、オランダ 4 名、ロシア 3 名、イタリア 2 名、メキシコ・ノルウェー・カナダ・スウェーデン・オーストラリア各 1 名、であった。

講演は、前回の募集形式ではなく、事前にテーマと講演者を指名して依頼する形を採った。2 日間の限られた時間の中で、各テーマの講演時間が極端に短くならず、参加者に講演内容をじっくり理解していただくための配慮である。基調講演 3 件のほか一般講演は 29 件とした。

基調講演は、初日に三菱総研(株)の藤原彰彦専務執行役員による「日本におけるモノづくりの展望」と、東芝燃料電池システム(株) 技術顧問による「家庭用燃料電池エネファームの本格普及実現に向けた取り組み状況」が、2 日目に木内学 東京大学名誉教授による「電縫管製造技術の最近の進歩」があった。

技術講演は日本 14 件、ドイツ 6 件、オランダ 2 件、イタリア、ノルウェー、アメリカ、カナダ、スウェーデン、オーストラリアが各 1 件であった(キャンセルが 1 件)。テーマ別では造管に関する戦略 2 件、成形技術 6 件、溶接設備 3 件、溶接技術 4 件、検査・測定技術 3 件、周辺技術 4 件、用途関連 4 件、ソフトウェア・解析 2 件であった。プロシーディングスの有償提供については分科会事務局(徳島大学)へ問合せされたい。

なお講演会初日の 18 時より 2 時間、Beer & Wine Party を企画し、参加者・スピーカー・実行委員・展示企業担当者が一堂に会して意見・情報交換を行うことができた。

最終日の 15 日(水)は、丸一鋼管(堺工場)と DMG 森精機(伊賀事業所)を見学した。堺工場では 26 インチミルとストレッチレギュラーの工程を見学し、伊賀事業所では自社製品展示会を 1 週間後に控えて多忙な中、全体説明と最新の NC 工作機械の見学ができた。なお、見学参加者は内外合わせて 41 名で、前回実績を大幅に上回り、生産現場を直接見る機会が必要であることが再認識された。

謝 辞

本国際シンポジウムを開催するに当たって、公益財団法人天田財団より国際会議等開催準備助成金を賜りました。本助成に対しまして深く感謝の意を表します。

参考文献

1) Proceedings of TUBE & PIPE OSAKA 2015, (2015), Osaka Japan.